



衣川 寛介

『たたら製鉄見学記 2』

1月29日（土）、JR木次線 出雲横田の駅前にある『浪花旅館』を起き出したのは、まだ真っ暗な午前5時、『けら』出しを見せて貰いたい私は5時半に出発、そう遠くない大呂の工場へ向かいました。幸いなことに今年の雪は少なく早朝にも関わらず道路は雪なしスイスイ。

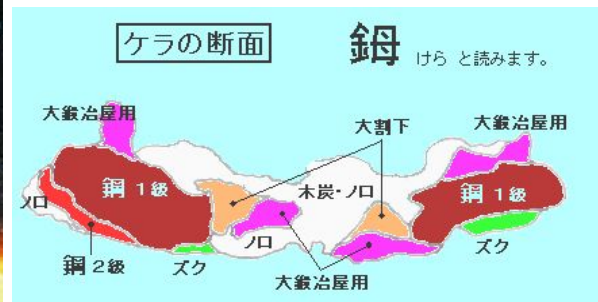
もうすでに見学者はかなりの人数です。6時頃『けら出し』の為の炉崩しが始まります。工場中央の炉は送風が止められ木炭装入もなく、静かに炎だけが燃えています。下部の炉壁は一部侵食されて炎が漏れています。左右のシャッターを開けるのを合図に炉を崩し始めます。『ハイ』村下の掛け声でもう一人の職人さんが天稗山に登りました。手には長い棒、先端に鉄のかぎが付いています。『セーノー』2本の棒が掛け声と共に引張られます。『ドサ』炉壁の上部が一部崩れました。どンドン崩して、今度は右側です。炭坂ともう一人、やはり2人で炉壁に挑みます。

小一時間の格闘の後、『けら』が顔を出しました。見学者のどよめきに村下達は安堵の色が出ました。『今回も良いが出来た』村下の声。何時ごろに『けら』を出しますか？『9時頃かな？』朝食を食べに旅館に戻りました。

天井からぶら下げられたホイストが中央へ運ばれます。生木の丸太が『けら』のそばへ数本、ウインチのワイヤーも引張ってこられました。いよいよ『けら』を引き出します。吊り上げられた瞬間が最も印象的な場面でした。



吊り上げられた『けら』の下は金色に輝いています。



和鋼博物館の資料より作成

けら（金偏に母と書く）

真砂砂鉄を用いた「たたら」の操業（けら押し法）によって炉内に生成される鉄塊の総称。日刀保たたらの場合、一回の操業で重さ約2.5トンを生産し、鑑別により約1トンの鋼（玉鋼）と銑および歩けら（不均質な鋼）がとれる。（P31）

参考資料

鐵の道を往く 鉄の道文化圏推進協議会

山陰中央新報社 2001年3月31日

写真協力 (財) 日本美術刀剣保存協会

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

ryou@memenet.or.jp

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！